

試しに、出口にホースを取り付けずに9 cmくらいの碎石を吸わせてみた。

碎石は大砲の玉のように勢い良く飛び出し、50 mくらい前方へぶっ飛んで行った。

1 トン袋の碎石は簡単に吸引出来た。

本番は碎石の大きさが最大15 cmである。今まで製作したことのない大きな吸いばあ（SW150）を製作することになった。

適当な材料も無く、納期にも余裕がなかった。

やむを得ず、市販の部材を利用して1台だけ製作する。

現場へ行ったら碎石が詰まったガードが特殊トレーラーに載っている。

指定したコンプレッサーは、吐出量が1分間に21.2 m³で吐出圧力が21.1 kg/cm²である。

これを3台連結したから、1分間の空気吐出量は約63 m³である。

吸い口に真空計を当てて測定したら、真空度はマイナス0.45メガパスカルであった。

内心「しめたいけるぞ！」と喜んでいたら

「そんなことをしなくても良いから早く吸わせてみろ！」

見ると、鹿島建設の現場監督（40才前後、東京大学出身）が立っていた。

高圧的な態度に私は反抗した。